



こどもクリニックニュース

NO. 116 平成21年8月1日発行
ともながこどもクリニック 0480-66-4150

休診の予定

8月19日(水)～26日(水)
9月12日(土)

お盆期間の8月13日(木)～15日(土)は、通常どおりに診察します。

水曜日は「一日休診」です！

平成21年4月1日より、毎週水曜日は午前中の診療も中止して丸一日を休診といたしました。その代わり、4月以降は一部の祝日の午前中に診療いたします。

祝日の診療予定表

9月	23日	(水)	秋分の日
10月	12日	(月)	体育の日
11月	3日	(火)	文化の日
	23日	(月)	勤労感謝の日
12月	23日	(水)	天皇誕生日

年内の祝日診療は今のところ上記のように計画していますが、11月以降の日程につきましては冬季の休日診療とのかね合い等で変更があるかもしれません。

院長の予定 (2009年9月まで)

8月	12日	(水)	2才健診	保健センター
9月	30日	(水)	9ヶ月健診	保健センター

これらの日は午前の受付を12:00前に締め切ることがあります。また午後の診療開始時間が多少遅れることがあります。なお水曜日は一日休診ですので診療には影響ありません。



新・日本脳炎ワクチン、意外に低調！？

新しい製造方法による日本脳炎ワクチンが6月上旬に発売されましたが、接種する方が非常に少なく、かえって戸惑っています。もっともこれには訳があって、厚生労働省が「日本脳炎ワクチンを積極的に勧奨しない(＝強くすすめない)」という方針をとっているのです。実施主体の市町村も広報できないのです。

ではなぜ「強くすすめない」のかというと、「ワクチンの供給量が不十分」だというのが一番の理由のようです。ワクチンの副反応や品質の問題ではありません。大々的に宣伝して多くの人が接種を希望したら、たちまちワクチンが不足するおそれがあるのです。ワクチンの供給量が十分になってから本格的に情報を発信するつもりなのでしょう。関東地方では日本脳炎の発生が極めて少ないので、1～2年待ってから接種を始めても何も問題ないとは思いますが、希望する方は接種できますのでご相談ください。

厚生労働省や市町村からの情報が少ないために、ワクチンがあることを知っていても「副反応が心配」で予防接種を受けることをためらっている方もいるようです。

旧日本脳炎ワクチンを一時中止にしたのは、副反応とされる脳症(ADEM)が他のワクチンよりも多いということがその理由でした。旧ワクチンはマウス(ねずみ)の脳を使って製造しており、そのことがADEMが多い原因ではないかと推定されていたのです。新しいワクチンはマウス脳を使わない、全く別の製造方法に変更されましたので、ADEMの危険性はかなり低くなっているはずですが、ただしADEMは他のワクチンの接種後にもまれに見られますし、そもそもワクチンとの関連のないADEMは、もっとたくさん発生しているのです。

すべてのワクチンについて、100%の安全性を保障することは不可能なことです。ワクチンの普及で病気そのものが著しく少なくなったことを忘れてはいけません。今回発売された新日本脳炎ワクチンの安全性は極めて高いと推測されます。ADEMという稀な副反応を心配するあまりに、ワクチンの接種率が低下し、将来日本脳炎の患者さんが大量発生することになっては元も子もないのではないのでしょうか。

感染症の情報

春先から流行が続いていた水痘と流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）は、夏休みが始まるとともにぐんと少なくなりました。やっと一段落といったところです。でもいつか再び必ず流行しますので、早めに予防接種を受けておかれることをお勧めします。

毎年夏になると流行を繰り返していた感染症「手足口病、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱（プール熱）」が、今年はまだほとんど見られません。今シーズンはこれらの病気の流行はないのかもしれませんが、不思議です。

新型

インフルエンザに対する備え

夏にもかかわらず、新型（豚）インフルエンザは全国的に流行が続いています。7月末の時点で、全国で診断が確定した患者さんの人数は 5000 人程度になっていますが、集団発生した場合を除いて確定診断のための遺伝子検査は実施されなくなりましたので、実際の患者数はもっと多いはずで、世界でもほとんどの国で患者さんが見つかっており、日本の今後の問題は秋以降の流行の拡大です。その時に大切なのは、正確な知識です。

今回の新型インフルエンザは、感染力は従来の季節性インフルエンザよりもやや強いものの、その毒性はほぼ同等と考えてよさそうです。世界では死亡した方も見られますが、日本国内では今のところ全員が治っています。お子様の中で脳症と診断された方が複数名見つかったとの報道がありましたが、いずれの方も無事回復されたようです。とはいえ、今後大流行して数千万人の方が発病したら、その中には不幸な結果になる方も出てくるでしょう。でも、マスコミなどにあおられず、冷静に対応して健康被害を最小限に抑えましょう。

ここでいくつかのポイントを！！まず最初に、①この秋から冬にかけてインフルエンザの流行は確実に起きることを覚悟してください。新型インフルエンザだけではありません。毎年流行している A ソ連型や A 香港型、そして B 型インフルエンザも消えてなくなったわけではないので、合計 4 種類のインフルエンザが流行することになります。次に、②従来から流行している香港型、ソ連型と新型インフルエンザはすべて A 型インフルエンザであり、普及している検査キットではまったく同じ反応しか出ませんので、一般の医療機関では区別することができません。でも、くどいようですが、③どちらも病気の重さに大きな違いはなく治療方法も同じですから『新型かどうか・・・』と気にする必要がないのです。自然経過で治ってしまう人もいますし、タミフルやリレンザといった治療薬も有効です。

皆様をお願いしたいこと、それは④インフルエンザと診断された方は新型かどうかにかかわらず、周囲の人へうつさないように心配りをしてください。具体的には学校や会社は無理をせずに休むこと、どうしても出かけるなければならないときはマスクを着用するといった「咳エチケット」を守ることです。また、家族や学校にインフルエンザの患者さんがいて、自分も感染した可能性が高い人は医療機関を受診する時に一言申し出てください。病院によっては診察時間をずらしたり、待合室を別に用意していることがあります。

インフルエンザではない方が医療機関を受診するときの注意点は『冬場の医療機関の待合室にはインフルエンザや風邪の患者さんがいる』ということに覚悟しておくことでしょう。医療機関がどんなに努力しても、厳密にインフルエンザの患者さんだけを区別して対応することは不可能なことなのです。

不要な受診はできるだけ控える、マスクの着用や帰宅後の手洗いを徹底するなど、できる限りの予防策をとりましょう。

次回は、ワクチンはどうする？どうなる？の予定です



ともながこどもクリニック・診療カレンダー

当院の休診・祝日診療の予定（10月分まで）をカレンダーにしました。受付窓口および玄関下駄箱の上に置いてありますので自由にお持ち帰りください。11月以降のカレンダーは、冬期の小児科休日診療の当番が決まり次第作成する予定です。

こどもクリニックニュースの無料郵送サービスをしています！

郵送をご希望の方は、受付にてお申し込み下さい



携帯用ホームページ

ともながこどもクリニック

加須市下高柳 1633-1

TEL 0480-66-4150